

# 乳児の救命処置の流れと手順

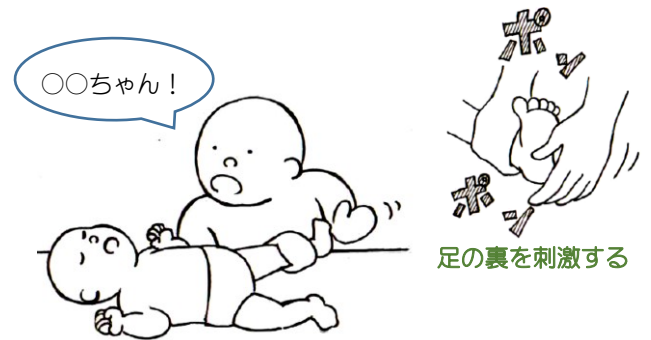
## 1 安全を確認する

- 傷病者の救助の前に、自分の安全確保を優先します。
- まず周囲の安全を確認し、状況にあわせて自らの安全を確保してから近付きます。



## 2 反応を確認する

- 声をかけながら反応があるかないかを確認めます。このとき、足の裏をたたいて刺激することも有効です。
- 反応があるかないかの判断に迷う場合、またはわからない場合も心停止の可能性を考えて行動します。



## 3 119番通報をしてAEDを手配する

- 大きな声で応援を求め、協力者が駆け付けたら「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼します。

協力者が誰もおらず、救助者が一人の場合には、次の手順に移る前に、まず、自分で119番通報をしてください。そして、すぐ近くにAEDがあることがわかっている場合には、AEDを取りに行ってください。



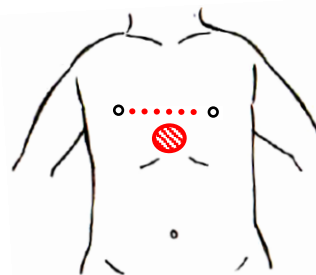
## 4 普段どおりの呼吸があるかの確認

- 胸や腹の上がり下がりを見て、普段どおりの呼吸をしているか10秒以内に判断します。
- 傷病者に普段どおりの呼吸がない場合、あるいはその判断に自信が持てない場合やわからない場合には、心停止と判断し、直ちに胸骨圧迫を開始します。
- 反応はないが普段どおりの呼吸がある場合は様子を見ながら応援や救急隊の到着を待ちます。



## 5 胸骨圧迫

- 圧迫の位置は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とした胸骨の下半分です。
- 胸骨圧迫は指2本で行います。
- 1分間に100~120回の速いテンポで連続して絶え間なく圧迫します。
- 圧迫の強さ（深さ）は、胸の厚さの約3分の1を目安として、十分に沈む程度に、強く、速く、絶え間なく圧迫します。乳児だからといって、こわごわと弱く圧迫したのでは効果が得られません。



圧迫位置は両乳頭を結んだ線の少し足側



乳児への胸骨圧迫

## 6 人工呼吸

- 胸骨圧迫を30回連続して行った後、気道確保を実施して人工呼吸を2回行います。

### 気道の確保

- ・気道確保の際に、極端に頭を後屈させるとかえって空気の通り道を塞ぐこととなりますので気を付けましょう。

### 人工呼吸(口対口鼻人工呼吸)

- ・乳児の大きさでは、口対口人工呼吸を実施することが難しい場合があります。この場合は乳児の口と鼻を同時に自分の口で覆う口対口鼻人工呼吸を行います。



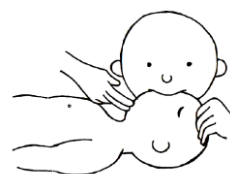
乳児への人工呼吸(口対口鼻人工呼吸)

### 心肺蘇生法の継続

- ・胸骨圧迫と人工呼吸の組合せ(30:2のサイクル)を救急隊員と交代するまで絶え間なく続けます。



胸骨圧迫  
30回



人工呼吸  
2回

### 胸骨圧迫 30回

- ・両乳頭を結んだ線の少し足側を圧迫
- ・強く(胸の厚さの3分の1程沈み込むまで)
- ・速く(1分間に100~120回のテンポ)
- ・絶え間なく
- ・圧迫と圧迫の間は、指がしっかり元の高さに戻るまで十分に力を抜く(胸から指を離さずに)

### 人工呼吸 2回

- ・口対口鼻で息を吹き込む
- ・胸が上がる程度
- ・1回約1秒間かけて
- ・2回続けて試みる
- ・10秒以上かけない